

氏名	辻 孝 夫
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 182 号
学位授与の日付	昭和41年 3 月31日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	ミオシンの抗原性と蛍光抗体法による光輝細胞の組織由来に関する研究
論文審査委員	教授 小坂 淳夫    教授 平 木    教授 小川 勝士

#### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

光輝細胞（浜崎）は、浜崎らにより滑平筋由来の新遊走細胞とされているが、滑平筋のような高度に分化した細胞が果して遊走細胞に変わり得るか否かについてなお若干の議論が残されている。

著者は、この細胞の組織由来を確認するために人白血病患者の腸潰瘍底にみられた光輝細胞及び犬に実験的に発生せしめた光輝細胞につき、人及び犬から得た骨格筋ミオシンを抗原として蛍光抗体法を用いて検索した。またミオシンの抗原性についても沈降反応を併用して検討を行い、興味ある知見を得たので若干の考察を加えた。

実験成績を要約すると、人の光輝細胞及び実験的に作られた犬の光輝細胞はミオシンを含み、その組織由来が筋原性であることを明瞭に実証し得た。さらに蛍光抗体法で光輝細胞のγグロブリン染色を行い、典型的な抗原抗体反応の場であるアルサス現象の病巣においてさえ、光輝細胞の原形質にはγグロブリンの含まれていないこと、及びアクリジン・オレンジ染色で細胞質にRNAの少いことから、この細胞は免疫反応に能動的な関与を示さず、また活動的な蛋白合成を営む細胞でもないことを明らかにした。他方抗原に用いた骨格筋ミオシンは人と犬の間に種属特異性はなく、さらに滑平筋ととの間の組織特異性もなかった。しかし人及び犬ミオシンで感作された家兎の血清は夫々の家兎自身のミオシンとは反応しないと云う結果を得た。この事実は、一般に正常の生体内では容易に自己免疫現象の起こり難いことを示唆するものと考えられた。

### 論文審査の結果の要旨

辻孝夫提出の「ミオシンの抗原性と蛍光抗体法による光輝細胞の組織由来に関する研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は、次の通りである。

人骨格筋および犬のそのミオシンを抽出し、これを抗原として抗ミオシン家兎血清を作製し、沈降反応および抗血清の蛍光標識蛋白液による交叉特異染色により、ミオシンの抗原性には種属特異性および組織、臓器特異性のないことを認め、また自己免疫疾患および同種免疫疾患が容易に発生し難い事実を裏書きした。

次に人の光輝細胞および実験的に作られた犬の光輝細胞を上記蛍光標識抗ミオシン血清を用いて染色し、該細胞はミオシンを含み、その組織由来が筋原性であることを証明した。

また蛍光抗体所見を haemafoxylin-eosin 染色およびPAS染色と比較検討し、光輝細胞が筋組織と同じく PAS 反応陽性で、多糖体を有していることを証明した。さらに蛍光抗体法で人の光輝細胞は $\gamma$ -グロブリンを含んでいないことを確認し、アクリジン、オレンヂ染色で原形質のRNAが少なく活動的な蛋白合成を営む細胞とは思われないとの所見をえた。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。